



## ホースセラピー

# 元気育てる 都会の牧場

のは、昨年5月のこと。運営は軌道に乗ってきたのでしようか。



「はい、やさしくブラシをかけて」「今度はゆっくりと歩かせましょう」

牧場に入ると、セラピス

トの指導を受けながら、元競走馬のサラブレッドやポニーの世話を続ける人たちがいました。最初は不安そうでも、ブラシで毛並みを整えられ、気持ちよさそうに馬の姿に触れて、みんな笑顔に変わります。

大阪に生まれ、大手商社からマーケティング会社に転職して、日に15時間働き続けました。無理が重なったのでしよう。2000年初め、東京出張から帰る途中の新幹線で体が動かなくなり、結核性ろく膿炎と診断されたのです。

「自分と同様、社会に出られず、苦しむ人が自信を取り戻せたら」。そう願って、NPO法人を設立したのは04年。乗馬クラブでセラピー活動を始め、その舞台を広げました。

「まだ数は多くはありませんが、再出発を果たした人も出てきました。職場になじめず、京都のアパートに7年間引きこもっていたという男性(43)は友人の紹介で牧場にやってきたとき、「無力感でいっぱい」だったそうです。それでも、草をはむ馬の生命力に励まされ、スタッフに支えられて、人づきあいへの自信と社会復帰の意欲が生まれ、10月、滋賀県の牧場で働き始めました。

ビル群に囲まれて、約6500平方メートルの牧場があります。大阪府枚方市の京阪枚方市駅から徒歩5分。樹木が茂り、四季折々の花が咲くその空間は、都会のオアシスのようです。

4頭の馬が放牧されていますが、観光用でも、畜産のためでもありません。ここは、国内初の「ホースセラピー」専用牧場。不登校や引きこもりに苦しむ人たちが、馬とのふれ合いを通して、生きる力を取り戻していく場所なのです。

NPO法人「ホース・フレンド事務局」(大阪市)が市有地を借りて開設した



馬にブラシをかける芦内裕実さん。「ホースセラピーで心身の健康を取り戻してほしい」(大阪府枚方市で)

て乗馬体験……。プログラムに沿って、セラピーを受ける人たちは今、約50人を数えます。小中学生の姿が多く、引きこもりのほか、学校で周囲と溶け込めない児童もいます。課題を終え、ス

からマーケティング会社に転職して、日に15時間働き続けました。無理が重なったのでしよう。2000年初め、東京出張から帰る途中の新幹線で体が動かなくなり、結核性ろく膿炎と診断されたのです。入院しましたが、病状はなかなか好転しません。復帰が遅れて心身ともに衰弱し、1か月半後、自宅療養に移ってから家にこもりがちになりました。以前通った乗馬クラブを訪れたのはそんなとき。「馬に抱きつく」と安らかな気持ちになっ



「自分と同様、社会に出られず、苦しむ人が自信を取り戻せたら」。そう願って、NPO法人を設立したのは04年。乗馬クラブでセラピー活動を始め、その舞台を広げました。

「まだ数は多くはありませんが、再出発を果たした人も出てきました。職場になじめず、京都のアパートに7年間引きこもっていたという男性(43)は友人の紹介で牧場にやってきたとき、「無力感でいっぱい」だったそうです。それでも、草をはむ馬の生命力に励まされ、スタッフに支えられて、人づきあいへの自信と社会復帰の意欲が生まれ、10月、滋賀県の牧場で働き始めました。